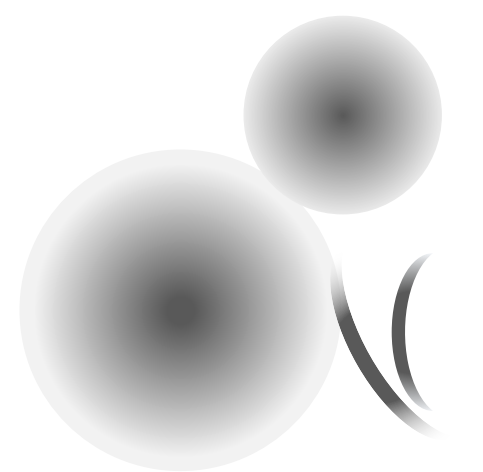


昨日、ふるさとのために
何ができただろうか



Handmade Hometown

～地域づくりに携わる人たちの想いと軌跡～

まえがき

^{ひとごと}他人事にして、行動を起こさない人が多い世の中… そんな声を聞くようになった

しかし、多くの地域には、ふるさとへの熱い想いをもち、知恵を絞り、汗を流し、
地域をよりよくするために行動し続けている人たちがいる

そんな人たちは、必ずしも苦難無く行動し続けている訳ではない
失敗や苦労を重ね、それでもなお、ふるさとへの熱い想いを胸に行動し続ける

それぞれの地域には、それぞれの課題がある
行動し続ける人たちのきっかけや動機も、活動の内容や規模もまた、それぞれ…
しかし、どの人たちにも共通して、熱い想いや行動へ移す勇気がある

本書は、そんな人たちの気概、工夫、軌跡を紹介し、
地域づくりに関わる方々に参考としていただく、あるいは、共感していただくことで、
“次の行動”のきっかけやヒントとなること願い、とりまとめたものである

目次

No	タイトル	活動団体
1	子どもたちに残したい！ ～その強い想いだけで歩み始めた～	NPO法人 キウシト湿原・登別
2	「私たちは、悔しいんです。」 ～この悔しさを繰り返さないと、17,000本の桜と交わす約束～	認定NPO法人 桜ライン311
3	歴史あるまちの歴史遺産に出会う「歴まちmeeting」 ～市民活動による歴史的街並みの保存・活用～	歴まちmeeting
4	人と人との『繋がり』を歴史的文化財で ～マルシェをきっかけに『繋がり』の輪を拓げる～	新庄市エコロジーガーデン交流拡大プロジェクト
5	たくさんの動植物が棲める豊かな森へ ～森林火災による焼け野原からの大復活！！～	森の自然学校 助川山保全くらぶ
6	「まちの未来を拓け、鹿嶋神の道！」 ～郷土の魅力再発見。市民が誇りに思い慈しむ道づくり～	鹿嶋神の道運営委員会
7	不法投棄されていた土地を地元の手で憩いの場に！ ～夢のひろばづくり～	花と緑の会
8	若い力で足利を盛り上げよう！ ～高校生のロケツアーリズム～	栃木県立足利清風高校
9	「このままでは、足尾が大変なことになる！」 ～その分野のスペシャリストの協力で、まちを元気に～	NPO法人 足尾歴史館
10	「鴻巣市」…なら『鴻』でしょ！ ～自然を再生・活用し元気で誇りある地域を未来へ～	NPO法人 鴻巣こうのとりを育む会
11	文化と芸術の里づくりを目指して ～養老桜とアートの小径プロジェクト～	桜さんさん会
12	『鴨居駅周辺の「まち」を更に元気にしたい！』 ～地域を知り、学び、活動も楽しい事が継続に～	鴨居駅周辺まちづくり研究会
13	危険な交差点が、地域のランドマークへ ～ラウンドアバウトから広がる花と緑のまちづくり～	野辺町長寿会
14	小さな村でもやればできる！ ～村を誇りに思う心が後押し、全国との交流に発展～	えちごせきかわ大したもん蛇まつり実行委員会
15	「ふるさとのために得意を活かそう」 ～花咲じいさんが、ヨソ者・若者・地域をつなぐ～	佐奈川を美しくする会
16	京文化をオープンデータで世界へ発信 ～世界のカメラ愛好家が「京都の魅力を発信」～	京都フラワーツーリズム
17	亀岡市東豎町文化祭 ～地域のサークル活動による交流活動～	東豎町自治会文化委員会
18	眠っている地域の宝物を見つけよう ～せつぶん草で集落の「誇りと絆」づくり～	中世木せつぶん草を守る会
19	密集市街地の小さな広場を活用した地域防災力向上に向けた挑戦。 ～ももに広場を舞台に育まれる「共助力」の物語～	ももに広場管理運営会
20	店主の集まりから始まった豊かな森づくり ～町から山へ、地域の自然を子供とともに創りだす～	いたやにすと
21	「これだ！やるしかない！」 ～川に近づき、川を利用、川で遊び、美しい川を創る～	京橋川かいわいあしがるクラブ
22	100年後も活動が続くように将来を見据えて！ ～その家族も参加してくれれば、活動はもっと広がる～	NPO法人江川エコフレンド
23	夢中になって清流に遊ぶ。そのことだけですばらしい！ ～四国三郎吉野川の大自然を体験し成長する子どもたち～	AMEMBO
24	明確なビジョンがあるから25年の活動に ～白鷺の住めるまちづくりを目指して～	松山白鷺ライオンズクラブ
25	竹の伐採活動 竹取物語 ～豊かな森林が水源涵養となり災害に強いまちづくりへ～	竹取物語実行委員会
26	川づくり、人づくり、まちづくり ～みんなで考えみんなで行動、継続は力～	四万十川自然再生協議会
27	「夢が叶うまち、門司港レトロの誕生」 ～高度成長できなかつた、だからこそ残った財産～	門司港レトロ倶楽部
28	「郷土の宝・朝倉の歴史的農業財産を守る」 ～地域を潤し350年 山田堰・堀川用水・水車群～	堀川の環境を守る会
29	「故郷延岡に恩返しをしたい」 ～ふるさとへの熱い思いが奇跡の堤防を産んだ～	天下一ひむか桜の会
30	子どもたちの誇れるふるさとづくり～花祭りと山羊を活用した地域活性化～	大石公園まちづくり委員会
31	少年に夢を、青年に希望を、お年寄りに誇りを・・・そんな街に住みたい！	国場川に清流を取り戻す会
32	美ら星を島の観光資源に～星空を活用して、地域活性化活動～	NPO法人 八重山星の会

子どもたちに残したい！ ～その強い思いだけで歩み始めた～

思い

軌跡



貴重な動植物が多数生息するキウシト湿原

NPO法人

キウシト湿原・登別

こんな近くに貴重な資源が！

宅地開発が進む登別市の住宅街に囲まれた小さな湿原。かつての原風景を残したキウシト湿原は、ゴミが散乱し、市民もあまり関心のない場所だった。しかし、貴重な動植物が多数確認され…。

子どもたちに残したい！強い思いが原動力

「貴重な湿原を守りたい！」「子どもたちに登別の財産を残したい！」と強い思いが宿る。ゴミ拾いから始め、手作業で外来植物を駆除するなど湿原の保全・再生に向け市民運動を展開。

行政、専門家とともに！

初期段階から湿原の専門家、登別市と一緒に調査し、何度も議論を重ねた。そうすることで、湿原の保全に向け市民、市、専門家のベクトルが一致！そして「協働」の体制が整った。

好きなことを楽しく

ミズバショウやホタルの鑑賞会、小学校総合学習などを通じて市民に共感が広がり、会員も増えた。子どもたちの喜ぶ姿に励まされ、あくまで好きで楽しく活動してきた結果、仲間づくりに繋がった。

成功したことしか覚えていない

「失敗したことは忘れたが、成功した話は何度でもできる。」と仲間と笑いながら振り返る…。
この前向きな姿勢が、地道に活動を続けてこられた秘訣かもしれない。



奇跡的に開発されず残った湿原



湿原の保全・再生(在来種の育成)



市、専門家と活発な意見交換



小学校総合学習(生き物調査)

【主な活動実績】

- 平成14年8月 キウシト湿原の会設立。市、市民、専門家の協働で保全・再生に取り組む
- 平成25年7月 NPO法人格取得
- 平成27年4月 ビジターセンター完成。管理業務受託。湿原の一般開放開始
- 平成28年11月 大雨、台風の影響が大きい中、前年度より来園者数増加

〔参考URL〕 <https://www.facebook.com/キウシト湿原登別-569270396577237/>

「私たちは、悔しいんです。」 ～この悔しさを繰り返さないで、17,000本の桜と交わす約束～

想い

軌跡



津波の到達点がぼやけ始めている今、
一日も早く、やりたいんです。

認定NPO法人 桜ライン311 代表 岡本 翔馬

10mを超える津波の可能性が、
震災前から声高に叫ばれていれば！

2011年3月11日、東日本大震災が発生し、東北各地を津波が襲う。過去にも津波被害があるのに、なぜその時の教訓が根付いていなかったのか。

津波到達点を桜でつなぐ

次の時代が、この悔しさを繰り返すことのないように、この津波の到達点約170キロを17,000本の桜の木でつなぎ、後世に伝えたい。石柱や石碑ではない、『愛される桜の木』で。

活動に参加したみんなが「語り部」

桜ライン311・ボランティア・地権者の密なコミュニケーションで、植樹した苗木の状態を観察し、管理。この活動に参加した人全員が震災・津波の「語り部」になっていく。

子孫の代まで風化させない！

津波のこわさ、備えの重要性を子孫の世代まで風化させない、普及・啓発活動を実施。

この悔しさを繰り返さないため、植樹した桜と、この活動に携わった人、この桜を見てくれた人の全員で、未来へのまちづくりを進めていきたい。



最初に植樹した桜。
春に満開の花を咲かせます



陸前高田市内の小学生を
対象とした植樹会



岡本 翔馬



植樹会開催時の集合写真

【主な活動実績】	
平成23年10月	任意団体 桜ライン311設立
平成27年3月	次の世代を担う小学生を対象とした植樹会を初めて開催
平成28年3月	植樹実績累計1,000本を突破
〔参考URL〕 http://www.sakura-line311.org/	

歴史あるまちの歴史遺産に出会う「歴まちmeeting」 ～市民活動による歴史的街並みの保存・活用～

思い

軌跡



「歴まちmeeting」歴史的建造物公開イベント(2回目)にて

【主な活動実績】

- 平成27年5月 「歴まちmeeting」歴史的建造物公開イベント(1回目)
 - 平成27年11月 「歴まちmeeting」歴史的建造物公開イベント(2回目)
 - 平成28年5月 「歴まちmeeting」歴史的建造物公開イベント(3回目)
 - 平成28年10月 「歴まちmeeting」歴史的建造物公開イベント(4回目)
- 〔参考URL〕 <https://www.facebook.com/events/1527489517541717/>

歴まちmeeting 代表

佐藤 ひろこ

歴史的建造物をなくしてはいけない！！

鶴岡市には歴史的建造物が多く存在するが、所有者の廃業や高齢化により維持管理ができなくなっており、貴重な建造物や歴史的景観が失われていくことに危機感を持った。

歴史的建造物に光を！！

歴史的建造物を知ってもらうには「来て、見て、触れてもらう」ことが大切であることから公開イベントを開催。イベントには鶴岡市内外から大勢の参加があり、また3回目のイベントには地元新聞社の取材を受けイベント内容が新聞に掲載された。

イベント参加者の輪を広げる！！

facebookなどSNSを活用して参加の呼びかけを行うことで活動の輪が広がっている。高校生を含めた幅広い参加者により歴史的建造物の啓蒙・保存活動を継続していく。

歴史的建造物を活かした街づくり！！

歴史的建造物の保存だけでなく街並みを含めた歴史的資源の啓蒙・保全活動を鶴岡市民全体で進めていきたい。



「歴まちはじまりのマップ」作成のためのワークショップ開催状況



「歴史的建造物公開イベント」1回目開催状況



「歴史的建造物修復イベント」実施状況

人と人との『繋がり』を歴史的文化財で ～マルシェをきっかけに『繋がり』の輪を拡げる～

想い

軌跡



「繋がり」という
新しい遊びのかたち

Ecology Garden Kitokito MARCHE



運営を行うボランティアスタッフ

新庄市エコロジーガーデン
交流拡大プロジェクト 副実行委員長

吉野 敏充

きっかけはひとつの『繋がり』

山形にUターンした際、別のプロジェクトで『繋がり』のあった市の担当者からの相談…

「来訪者数が少ない旧蚕糸試験場エコロジーガーデンを活用できないか？」

登録有形文化財をつかってマルシェを！

東京で実家の米や野菜を販売していた時に感じた、「人と対話しながら販売することの大切さ」。

農家が自分で作った農産物を直接消費者に販売できるKitoKitoマルシェを立ち上げた。

『繋がり』の輪

初めは人が少なく、集客も口コミで広めていった。人数が多くなれば、楽しそうな雰囲気につられ、遠巻きに見ていた人達も参加し始めた。やがて、参加者の『繋がり』から高校生のボランティアも参加するように…。

マルシェをきっかけに、伝承野菜、地元の野菜にこだわった、スタッフによる「AOMUSHIカフェ」がオープンし、繋がり輪が広がっている。

『繋がり』の輪を拡げる！

出店者は売り上げよりもお客さんとの交流を楽しんでいる。

マルシェへの出店をきっかけに繋がっていき、街の店舗にもお客さんが来るようになればいい。それが理想…



kitokitoマルシェ



AOMUSHIカフェ



スタッフのガーデン整備

【主な活動実績】

- 平成24年6月 新庄市エコロジーガーデン交流拡大プロジェクト実行委員会設立
- 平成24年7月 手づくり市「kitokitoマルシェ」オープン(毎年5月～11月の第3日曜開催)
- 平成27年8月 コミュニティカフェ「AOMUSHIカフェ」オープン

〔参考URL〕 <http://kito-kito.tumblr.com/>

たくさんの動植物が棲める豊かな森へ ～森林火災による焼け野原からの大復活！！～

巣箱作り教室で作られた巣箱は森に設置され、野鳥たちの家となる



森の自然学校 助川山保全くらぶ

このままでは森が荒れてしまう！

平成3年3月、日立市市街地西側の山地で森林火災が発生。市が跡地を森林公園「助川山市民の森」として整備したが、継続的な森林保全管理が行われないと、森林公園の機能や魅力が損なわれてしまう…。

生物多様性のある豊かな里山をつくろう！

公園整備中に自主的にゴミ拾いをしていた有志が集まり、豊かな里山づくりを行うべく立ち上がった。

単層林からの脱却

火災によって、単層林となった山は、動植物が棲みにくい環境となっていた。

状況を打開すべくドングリの木の植樹。地道で永い戦いが始まった…。

里山を守り続けるために

気が付けば、活動は15年以上続き、植樹本数は7,000本以上に！

里山づくりは一代で終わる活動ではない。豊かな自然を作り上げ、守り続けるためには次世代の地域の子供たちに継承していかななくてはならない。

地域や次世代の子供たちのために

植樹作業は地域の子供たちと行ってきた。自然と触れ合うことで、子供たちは自然環境を守る心を知る。そして、自分たちで植樹をすることで郷土を愛する気持ちが芽生える。

地域を守る為に、次世代の子供たちの郷土を守る為に、継続して活動に取り組みたい。

想い

軌跡



豊かな感性を育む子供たちとのハイク



地域イベントで木工教室を開催



くらぶのメンバー

子供たちが植えた木々が、里山を豊かにしていく

【主な活動実績】

平成10年 任意団体としてボランティア活動開始

平成14年 日立市より「公園パトロール」を受託

平成16年 日立市と「公園里親協定」を締結

平成16年 組織を任意団体からNPO法人に変更

〔参考URL〕 <http://www.net1.jway.ne.jp/zg6y-hri/>

「まちの未来を拓け、鹿嶋神の道！」

～郷土の魅力再発見。市民が誇りに思い慈しむ道づくり～

思い

軌跡



神の住むまちの入口、一之鳥居

「鹿嶋神の道」は、平成25年8月に「新・日本歩く道紀行100選:文化の道」に認定された

【主な活動実績】

- 平成22年3月 「鹿嶋再発見まち歩きツアー」開始
- 平成23年2月 「鹿嶋神の道運営委員会」設立
- 平成24年5月 「鹿嶋神の道ルート1:神の住むまち」オープン
- 平成28年5月 「鹿嶋神の道ルート2:剣聖の里」オープン
- 平成29年5月 「鹿嶋神の道ルート3:降臨の里」オープン

〔参考URL〕 <http://www.god-road.com>

鹿嶋神の道運営委員会 代表

西岡 邦彦



第4の柱を求めて

鹿嶋神宮、鹿嶋アントラーズ、鹿嶋製鉄所がまちの3本柱。しかし、経済の基盤である鉄鋼景気の停滞と若者離れで、まちの活気が次第に失われ、このままではジリ貧。第4の柱の育成が急務との危機意識を持った。

神の住むまちの価値再発見

鹿嶋は神の住むまちとして鹿嶋神宮を中心に悠久の歴史があり、北浦と太平洋に挟まれた豊かな自然がある。これらの資源を掘り起し、市民がその価値に目覚め、郷土愛を醸成できないかと考えた。

鹿嶋を知ろう！ 知ってもらおう鹿嶋！

まず、市民向けにまちの魅力を歩いて体感する「鹿嶋再発見まち歩きツアー」を立ち上げた。鹿嶋市全域を、毎月様々なルートで歩くことで、市民にまちの魅力を再認識してもらった。次には、市内外の人に鹿嶋の魅力を知ってもらおう本格的なウォーキングコース「鹿嶋神の道」づくりに着手した。

第4の柱に向かって

「鹿嶋神の道」は鹿嶋の未来に向かって伸びていく。水郷を囲む自治体と連携し、コースを拡充、日本文化遺産化を目指す。

鹿嶋人が誇りに思い慈しむ第4の柱のために…



神々しい鹿嶋神宮の樹叢



こころの故郷、三社詣りの古道



鹿嶋神の道の代表 西岡 邦彦

不法投棄されていた土地を地元の手で憩いの場に！ ～夢のひろばづくり～

想い

軌跡



ひろばで草刈のあとヤギとひと休み

花と緑の会 会長 田中 三郎

このままではいけない

当時、市の残土置き場として利用されていたこの土地…。不法投棄が絶えず、管理が難しかった。『須田小学校に近いこの場所が、荒れたままでいいのか。』地元で声があがりはじめた。

地元のちからで！

地元の声を受け、市は『夢のひろば須田』として整備を行った。しかし、自然のちからは強く、しばらく経つと、また雑草が生い茂ってしまう。市の予算も限界があり、管理は難しい。そんな時、『地元でやってみよう！』と声をあげた。『市に任せてばかりではだめだ。地元で住民自らが管理していこうではないか。』と…。

おもしろいアイデアを持ち寄って

夏場は刈ったそばから雑草が生えていく。そこでヤギを飼育してみた。除草を手伝ってくれるだけでなく、ヤギに会うために近所の人たちが訪れるようになり、人気者に。おもしろいと思ったアイデアを実現させることで、会の活性化にもつながった。

毎年、少しずつ新しいことへ挑戦していく

昨年と同じことをするという事は、現状維持ではなく、衰退につながる。少しずつでも、新しいことに挑戦していくことが、大切だ。来年は、ホタルを地元で復活させることができるだろうか…。



ひろばで飼育しているヤギはみんなの人気者



『1年中花が見られるひろばに』を合言葉に



花と緑の会のメンバー
(前列左が田中会長)

【主な活動実績】

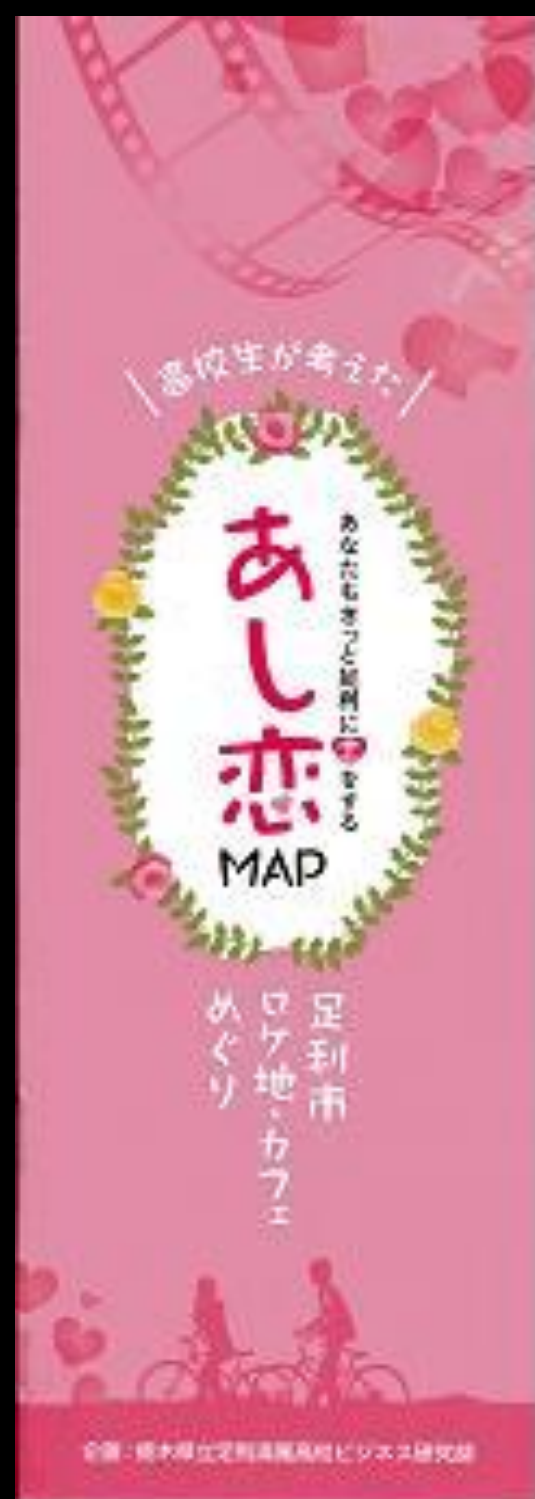
- 平成20年 会の発足
 - 平成20年 花壇部分(2,000㎡)の花植えを開始
 - 平成25年 造成地全体(約2万㎡)の管理を花と緑の会で開始
 - 平成26年 ヤギの飼育をはじめ
- [Twitter]@yagi_suda [Instagram] yagisuda

若い力で足利を盛り上げよう！

～高校生のロケツアーリズム～

想い

軌跡



「映像のまち」と「観光」の融合で辿り着いた答えが「ロケツアーリズム」。

足利市のロケ地やカフェを紹介した「あし恋MAP」を作成し、市内の

ロケ地を巡るツアーを高校生がガイドとなり、自らマイクを握った。



【主な活動実績】

平成25年 「てくてくマップ」の作成 「ちゃりちゃりマップ」の作成
 平成26年 「ぽんぽんマップ」の作成 スタンプラリーの実施
 平成27～28年 「あし恋MAP」の作成 ロケ地巡りツアーの実施

〔参考URL〕 <http://www.tochigi-edu.ed.jp/ashikagaseifu/nc2/>

栃木県立

足利清風高校

地域を盛り上げたい！

人口減少や少子高齢化に伴う地域の衰退問題…。「地域を盛り上げたい！」ビジネス研究部の活動の一環から始まった。

歴史的建造物や観光名所をもつ足利市。活性化するにはどうしたらよいかを考え、それをまちづくり・地域興しに活かせないかという思いだった。

足利市の魅力を考える

「私たち高校生に何ができるのか」、「足利市の魅力を発信するためにはどうしたらよいか」。考えるのには多くの時間がかかった。

足利市を知るために調査・研究し、改めて足利市を知ること、どうしたら良いかが見えてきた。

取り組むのは、これだ！

商業科である私たちには、建物を建てたり、作物を作ることはできない。今ある資源を使って何ができるかを考えた。

平成25年に市が提唱した「映像のまち構想」を「観光」と融合させることで、新たな観光資源として発信できるのではないかと…。そこで、観光ガイドマップづくりとロケ地巡りツアーを思い立った。

高校生らしく取り組みたい！

この活動を通して、多くの方との出会い、ふれあい、繋がりをもてた。

今後も地域のために高校生ができることを、高校生らしく考え頑張るぞ！ ファイトー！



～ツアー風景1～
「バンクーバーの朝日」
ロケ地でのランチ



～ツアー風景2～
「ちはやふる」のロケ地となった
場所で競技かるた大会を開催！



～ツアーの風景番外編～
地場産業の足利銘仙を
身にまとい、ガイドに挑戦！

「このままでは、足尾が大変なことになる！」 ～その分野のスペシャリストの協力で、まちを元気に～

思い

軌跡



平成21年8月8日に開催した「ガソリンカー祭」

NPO法人足尾歴史館 理事長

長井 一雄

このままでは足尾が大変なことになる！

大正時代には県都宇都宮に次ぐ4万人の人口があった故郷「足尾」。仕事を退職し足尾に戻ってきたとき、人口は3,100人と大幅に減少しており、少子高齢化が深刻な状況になっていた。

「なんとかしたい！」と思い、足尾歴史館を平成17年に立ち上げた。

「手づくり」

大正15年から昭和28年まで足尾の町中を走行し、銅山の資材や生活物資輸送、足尾町民の足となっていたガソリンカーを「手づくり」で復元した。

図面も部品も何も無い状態からスタートし、写真を頼りに復元。部品は自分たちで作成した。

スペシャリストの協力

団体の活動は、その道のスペシャリストや物の寄託による。

例えば、保存車両の修理は地元自動車修理工場の整備士、歴史館の展示にある模型は、模型作家からの寄託で成り立っている。

ぜひ、足尾へ！！

足尾には日本の近代化を支えた多くの産業遺産群があり、私たちが産業遺産ガイドとしても活動しています！

是非、足尾にお越し下さい！！



「足尾駅保存車両の一般公開」イベントの様子



模型作家から寄託された模型



産業遺産ガイドとして、足尾銅山の歴史を説明

【主な活動実績】

- 平成17年4月 足尾歴史館の開館
- 平成18年6月 世界遺産登録を考える会発足
- 平成19年4月 足尾駅祭開催
- 平成21年8月 ガソリンカーを復元し一般公開(現在も年3回保存車両を一般公開)

〔参考URL〕 <http://ashiorekishikan.com/>

想い

軌跡

「鴻巣市」…なら『鴻』でしょ！ ～自然を再生・活用し元気で誇りある地域を未来へ～



取組のシンボル
コウノトリ

湿地づくりは地味な作業の連続。でも生きものたちのため、将来世代のため頑張ってます！



湿地づくりを認めてくれるかのようにオオハクチョウの家族が初飛来。来年も待ってるよ！

【主な活動実績】

- 平成19年 任意団体として発足(平成24年 NPO法人取得)
- 平成21～22年 コウノトリ飼育放鳥の署名活動、「コウノトリ講演会」主催
- 平成23年 湿地ビオトープ第1号整備(平成26年・第2号整備)

〔参考URL〕 <http://blogs.yahoo.co.jp/imokounotori>

NPO法人 鴻巣ここのとりを育む会

代表理事 伊藤 鑄義

「鴻巣市にコウノトリを再び舞わせたい！」

まちづくり会議の休憩時、トイレでふと漏らした一言に「やろう！」と仲間が集まり、取組が動き出した。

まずは仲間をふやそう！

コウノトリをわがまちに取り戻そう、と署名活動を実施。人口12万のわがまちで2万5千人の署名を集めた。

兵庫県豊岡市の中貝市長による講演会も主催。約800人の参加を得て、コウノトリも暮らせるまちづくりの先進的な取組みを知り、がぜん取組に火がついた！GO！GO！育む会。

「湿地ビオトープ」と「生きもの育む田んぼ」

地権者の協力により河川敷に湿地を再生。専門家や農家等と協働でコウノトリの採餌環境をつくった。多くの生きものを育み、人にも安全・安心な田んぼプロジェクトも始動。作ったお米のPRで展示会に出陣！食育ともつなげちゃえ！

市内外とのつながりと交流

地域だけでなく先進地や同じ目的をもつ団体とのつながり・交流にも力を入れてきた。地域での行きづまった悩みも様々な「人」とのつながりと、明確な目標があったからこそ、乗り越えられた。

次はコウノトリだ！！

湿地再生、環境にやさしい田んぼづくり、様々なイベント・広報活動…。仲間は広がり、水辺には「水ガキ」(子ども)や、かつて水ガキだった大人たちを含めた多くの“生きもの”が帰ってきた。

今年はオオハクチョウも飛来！とくれば…。



河川敷に湿地を再生



「堤内地の湿地」＝「田んぼ」を生きもの育む空間に。農家や有機稲作の専門家等と連携で！



育む会の面々

文化と芸術の里づくりを目指して ～養老桜とアートの小径プロジェクト～

思い

軌跡

満開の桜並木を 夢に見て 妻と歩まん 古希の秋
二〇一〇年十一月十四日
河内昌成・陽子
（桜さんさん会）

「満開の 桜並木を 夢に見て 妻と歩まん 古希の秋」
会長の河内氏が桜の銘板につづった詩。
すべての桜にそれぞれの思いがつづられている。
時を経ても人の思いは同じで、桜並木の遊歩道沿いで、
世代や時空を超えたコミュニケーションが行われている。



養老川と桜

桜さんさん会

文化と芸術の里づくり

きっかけは市原市による市民会議だった。市民主導によるまちづくりを計画する中で考えたのが、養老川を桜並木でいっぱいにし、芸術的オブジェを並べる「養老桜とアートの小径(こみち)プロジェクト」である。

時空を超えたコミュニケーション

植樹をする際には里親を募集し、1本1本全ての桜に里親の思いをつづった銘板を取り付けた。また、小学生が養老川や桜並木の美しさを詠った詩を紹介する看板を道沿いに設置した。

訪れる人々が銘板や詩を読むことで世代や時空を超えたコミュニケーションが生まれる。

信頼できる仲間が増えていった

活動を継続していく中で、活動だけでなく私的なことも相談でき、個人的な協力も申し合えるような仲間が出来ていった。これは何よりの財産だ。

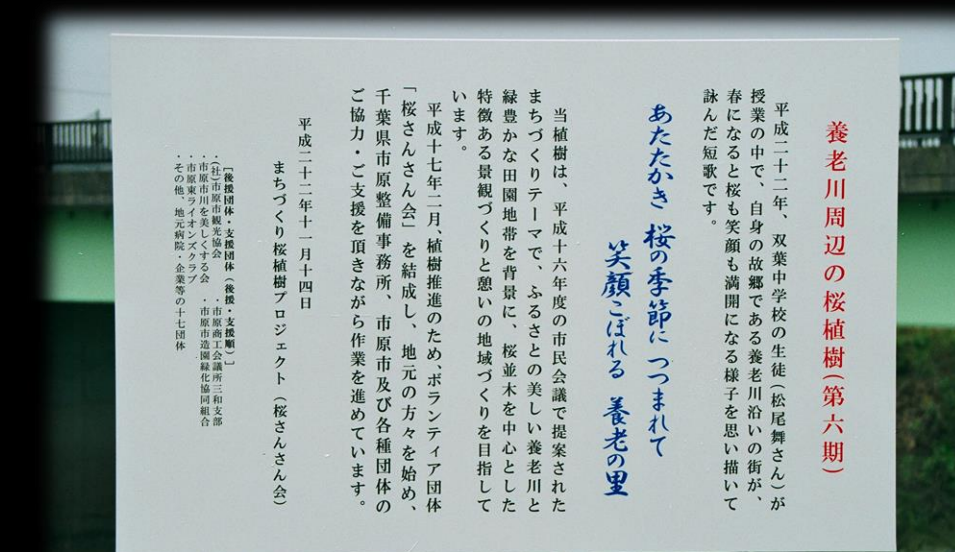
人生総仕上げの活動

スタートして満12年、人生総仕上げの活動として、良い町づくりに共感した多くの仲間とやりがいを感じ活動している。

思い描いた景色が出来るまで、20年、30年かかるプロジェクト。ボランティアとしての活動は少々キツイ面もあるが、地域づくりは世代を繋いで継続することが極めて重要。詩を詠った子供たちや里親の子供たちに繋いで、活動を継続していきたい。



「養老の未来をみつめて」
道沿いには地域に縁のある芸術家が製作したオブジェを並べている。



～あたたかき 桜の季節に つつまれて
笑顔こぼれる養老の里～
小学生が詠んだ詩の紹介する看板
この看板は7か所に設置されている。



桜さんさん会の人たち
毎春、桜を植えた河川沿いで
お花見会を開催

【主な活動実績】

- 平成17年2月 まちづくり桜植樹プロジェクト「桜さんさん会」設立
- 平成24年 約200本の桜の植樹が終了
- 平成25年 芸術的オブジェの設置を開始

〔参考URL〕 <http://www.geocities.jp/sakurasansankai/>

『鴨居駅周辺の「まち」を更に元気にしたい！』 ～地域を知り、学び、活動も楽しい事が継続に～

想い

軌跡



キレイにした駅自由通路で開催するエキコン

鴨居駅周辺まちづくり研究会

相談役 狩野 陽二

地域を知る事がまちづくりの第一歩

鴨居の歴史を知るうちに街に愛着が湧いてきた。街の魅力を発掘し、広めるために、地域の方を対象に「まち歩き」イベントを開催。区と協力し、発掘した魅力を詰め込んだ「鴨居駅周辺魅力マップ」を作成した。

設立時に7名だった会員は現在70名に！

鴨居の玄関口をキレイにしよう

まちづくりの基本はキレイな事。

会員から「鴨居の玄関口の鴨居駅をキレイにしよう」と声が上り、平成17年から毎週日曜日の鴨居駅自由通路の清掃が始まった。振り返れば、10年以上も継続！延べ700回以上。

今後も多くの方と一緒に！

鴨居から文化を発信し続けよう

自分たちの手でキレイにした鴨居駅自由通路を活用し、文化の発信をするため、地元の企業・商店等の協力でミニコンサート(鴨居エキコン)を駅自由通路で開催！

協働が信頼と人材を集める

研究会の事業の多くは行政、連合自治会、商店会、学校等と協働で！常に次代の担い手の醸成と地元住民・新住民と心が通う絆を大切に、そして未来志向の心を。活動が楽しく誰もが主役になれる環境が会の運営に大切。

感謝の心を忘れずに！



研究会のメンバー



作成した魅力マップ



駅南口階段の清掃



毎回250名以上の人が集まるエキコン

【主な活動実績】

- 平成11年4月 鴨居駅周辺まちづくり研究会を7名で設立
- 平成12年4月 鴨居駅周辺の魅力マップを発刊
- 平成15年10月 鴨居駅自由通路の清掃を開始
- 平成15年12月 鴨居エキコン第1回目開催(平成28年12月で40回目)
- 〔参考URL〕 <http://www1a.biglobe.ne.jp/kamoirengo/machiken/index.htm>

想い

軌跡

危険な交差点が、地域のランドマークへ ～ラウンドアバウトから広がる花と緑のまちづくり～

野辺町長寿会



ラウンドアバウトの中央島花壇

危険な交差点

出合い頭の事故も多く、地元からも長年にわたり改善の要望が上がっていた交差点だった。

花壇の維持管理へ

須坂市のラウンドアバウト整備にあたり、整備計画の段階から交差点改良に向けた懇談会へ積極的に参加。そして、花壇の維持管理を任されることに。

苦悩の管理

植えた花が枯れてしまい、植え直しを行う。
夏場は道路の強い照り返しがあり、すぐに土が乾いてしまうため、頻りに散水しなければならない。
苦勞し、試行錯誤しながらの管理である。

地域のランドマーク

整備後、重大事故の発生がなく、花を咲かせているので、安全な地域の玄関口となり、「美しいラウンドアバウトがある野辺町」ということで、地域のランドマークに！

輪の広がり

近隣でも個人的に花を育てる方々が増加し、みんなの生きがいに。
ラウンドアバウトから始まった輪は、いつしか「花と緑のまちづくり」の輪へと広がっています。



事故が多かった交差点(整備前)



花植の手入れ作業



野辺町長寿会のメンバー

【主な活動実績】

昭和33年11月
平成24年
平成26年

野辺町長寿会設立
野辺町ラウンドアバウト懇談会に参加
野辺町ラウンドアバウト完成、継続して花壇の維持管理を行う。

想い

軌跡

小さな村でもやればできる！ ～村を誇りに思う心が後押し、全国との交流に発展～



「竹とわらで作られた世界一長い蛇」2001年ギネス認定。重量約2トン。約500人が交代で担ぐ。



村出身学生の企画で始まった国際ボランティア学生協会との交流は13年続いている。



【主な活動実績】

昭和63年8月	第1回まつり開催
平成16年4月	ふるさとイベント大賞 祭・イベント部門賞受賞
平成29年8月	羽越水害50周年記念イベントの翌日に第30回まつりを開催予定

〔参考URL〕
<http://www.vill.sekikawa.niigata.jp/info/sogo/taisitamonyja/maturi/maturi.html>

えちごせきかわ大したもん蛇まつり

実行委員 野本 誠

村が一丸となって楽しめるまつりを！

人口約5,800人の関川村。高齢化や過疎化で田舎が持つ連帯感が薄れつつあった。人材育成のため村が開いた「せきかわふるさと塾」での発案がまつり誕生のきっかけになった。

羽越水害を忘れないために…

村は昭和42年8月28日に発生した羽越水害で、多くの犠牲者と甚大な被害に遭った。その悲しみを決して忘れないよう、まつりの日を8月28日前後、大蛇の長さも82.8mとした。

全集落が手作りする世界一長い大蛇

竹とわらで作る大蛇の胴体は、全集落の数54に分けて全集落が協力して制作。まつり当日に参加できない人も関われる工夫だ。

わらを編むロープでウロコを表現するのは塾生の昼職人からのアイデア。村特産品のわら細工がヒントになった。

まつりを続けることが村の誇りに

当初は毎年続けるつもりは無かった。1年目は大成功したが、モチベーションを維持するのに苦労した。実行委員の熱意と村民に芽生え始めた“村を誇りに思う心”が後押しになって続けられている。

地域間交流で人の輪が広がった

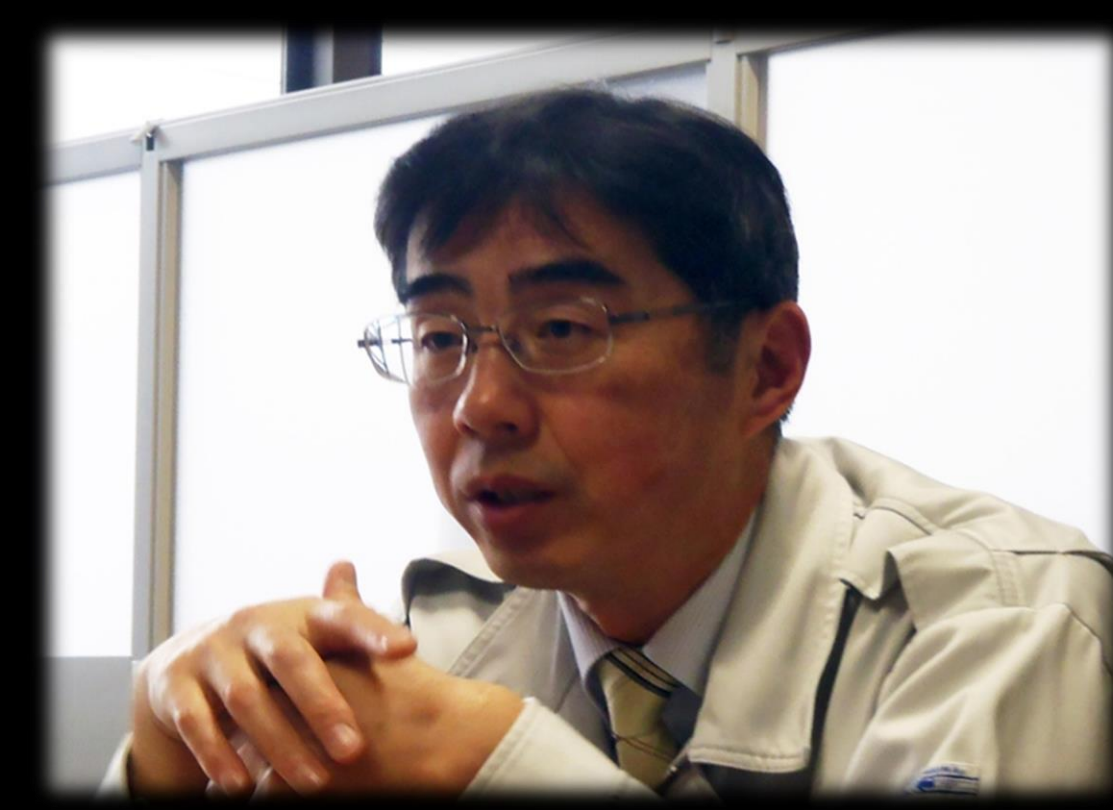
他地域のイベントから声がかかり、徐々に交流が広がった。ボランティア参加がきっかけで全国の学生とも通年で交流するまでに…



村を襲った羽越水害。羽越水害と村に伝わる大蛇伝説をまつりのテーマに。



全集落で大蛇を制作。



野本 誠

「ふるさとのために得意を活かそう」 ～花咲じいさんが、ヨソ者・若者・地域をつなぐ～

思い

軌跡



花を咲かせる活動などの活動場所(佐奈川の桜堤公園)

【主な活動実績】	
平成16年7月	シャープ三重工場の従業員が清掃活動を単独スタート (周辺地域住民、学校、行政へと拡大)
平成20年4月	佐奈川を美しくする会設立
平成22年4月	河川敷に花を咲かせる活動、魚の保護活動など活動が発展

佐奈川を美しくする会 会長 扇田 榮夫

ふるさとの川が汚れてしまった！

美しい川を取り戻したいと、自ら地域住民による清掃活動を立ち上げたが、減らないゴミの山にあきらめかけていた…。

ヨソ者の企業がんばっているのに…

佐奈川に大企業の工場が立地し、従業員が川の清掃活動をはじめた。

ヨソ者である企業の従業員ががんばっている。誘発され、地域住民も再び立ち上がった！

ふるさとのために得意を活かそう！

参加者が近所の人へ声を掛けたり、企業が中心となり物的な支援を行い活動紹介を作成し、行政が持つネットワークで情報発信するなど、それぞれの得意なことを持ち寄ることで活動を継続・発展させよう。そんな思いから、「佐奈川を美しくする会」を発足した。

花咲じいさん地域をつなぐ

穏やかに「川に花を咲かせましょう」と花咲じいさんのようにビラをまき、呼びかける。

地道な呼びかけにより、工場周辺での小さな取組が地域全体をつなぎ、環境保全活動、地域支援、生物多様性保全、学習支援へと大きく活動が発展。

みんなが参加しやすいように

若者や子育て世代が家族連れで参加しやすいように清掃活動をはじめ水生生物観察会や菜の花畑の植栽、環境学習など多岐にわたりイベントを工夫。

地域全体がふるさとを知り、愛着が増した。



住民・企業・行政による清掃活動



佐奈川を美しくする会のメンバー



扇田 榮夫

京文化をオープンデータで世界へ発信 ～世界のカメラ愛好家が「京都の魅力を発信」～

想い

軌跡



撮影会で撮影した舞妓さん。オープンデータとして世界へ配信

京都フラワーツーリズム

高木 治夫

舞妓とは？

海外では、「舞妓」「花街文化」を間違って認識されている。「舞妓」「花街文化」の魅力・情報を身近なものにするには、京都の魅力を情報発信する必要がある…。

魅力・情報は？

そこで、歴史・文化のある京都の文化財施設で舞妓さんをモデルにした撮影会を開催。日本各地、外国のカメラ愛好家の会員が、一眼レフのカメラで舞妓さんの撮影する。モデルとなった舞妓さんが気に入った写真は「舞妓賞」として選定。

オープンデータで発信

撮影された写真はオープンデータとして公表。「京都の魅力」を世界に発信中。オープンデータの構図に時間を要したが、提供された写真をより良く見せるために工夫した。さらに、SNSやスマホのアプリ(舞妓なび)、サイネージ放映等で世界に発信中。

今後は！

日本の四季折々の風景についても写真撮影会のイベントを行い、世界に発信していきたい。



舞妓さんの撮影状況



外国のカメラ愛好家



舞妓なび

【主な活動実績】

- 平成18年1月 花なびシステムの構築開始
 - 平成18年8月 花なびシステムが国土交通省「まちめぐりナビプロジェクト」に選定
 - 平成21年5月 京都フラワーツーリズム創業
 - 平成26年3月 総務省「オープンデータ・アプリコンテスト」で観光実証賞受
- 〔参考URL〕 <http://flowertourism.net/>

亀岡市東堅町文化祭

～地域のサークル活動による交流活動～

想い

軌跡



切り絵燈籠の展示状況

東堅町自治会文化委員会 事務局

達富 弘之

切り絵サークルの開催！

少子高齢化が進んでいる東堅町…。住民のコミュニケーションを行う場として、切り絵サークルを開催。

作品の展覧会が、文化祭に！

切り絵サークルの作品展覧会を開催することで次の展覧会に向け、サークル参加者の若さを引き出し、創作力・表現力も高めていくことができた。現在では、亀岡祭に東堅町文化祭として展覧会を開催するまでに！

切り絵燈籠の作成

また、平成18年からは、町内全域を明るく照らすオリジナルの切り絵燈籠を作成。現在では、150基を作成し、東堅町文化祭では町内に飾りつけ。街並みを彩る風物詩に…。

3年をかけて、東堅町誌を作成・配布！

各自治会役員が、様々な資料をもとに3年かけて東堅町誌を作成！
記憶を記録に残すことができました。

今後の運営は？

少子高齢化が進む東堅町自治会では、世話役の確保が難しくなっており、主体となる運営者を見つけていかないといけない。



切り絵サークル展覧会



東堅町誌の作成



町誌編集委員のみなさんと

【主な活動実績】

平成18年 東堅町自治会文化委員会設立
平成27年10月 第10回 東堅町文化祭
平成28年10月 第11回 東堅町文化祭

〔参考URL〕 <http://higabun.web.fc2.com/>

眠っている地域の宝物を見つけよう ～せつぶん草で集落の「誇りと絆」づくり～

想い

軌跡



集落の宝物「せつぶん草」

中世木せつぶん草を守る会 事務局長

池村 嘉浩

良いところなんかあらへん…

周辺の開発に取り残され、少子高齢化が進む人口132人の限界集落。諦めムードでなんにもない集落は、集落内の交流すら希薄だった。

集落の良いところ探しを始めよう！

「中世木は、山野草の宝庫。」地元の山野草愛好家の発言をきっかけに集落の良いところ探しが始まった。せつぶん草の群生地が発見され、地権者の「公開して地域の資源にしよう。」との声から盗掘の懸念もあったものの公開に踏み切った結果、集落の知名度がアップ！

せつぶん草は集落の自慢に！

どのようにせつぶん草を守り、
地域を盛り上げていくか。

平成26年3月に「せつぶん草祭り」を開催。参加者から寄付金を頂き運営費に充て、地元野菜の販売を行うなど、人口の4倍強の600人を集め大成功！

これからも群生地の草刈りなどを集落全体で取組み、せつぶん草を保全していきたい。

せつぶん草のある活気あるところに住みたい！

平成28年には、群生地の景観に惚れた3世帯9人がIターン。子供の誕生もあり、限界集落から脱出！

どこかに眠っている宝物があるはず。

ただの雑草だったせつぶん草も見方を変えれば地域の誇りとなった。

限界集落など同じ悩みを持っている皆さん、諦めずに眠っている地域の誇りとなる宝物を探してほしい！

「気負わず、背負わず、皆と楽しく」談



せつぶん草を観察する
祭り参加者



集落の方々により盛り上がる
せつぶん草祭り
(地元野菜の販売会)



池村 嘉浩

【主な活動実績】

- 平成26年3月 第1回せつぶん草祭り
- 平成26年12月 勉強会(同志社大学工学部 光田准教授)
- 平成27年2月 第2回せつぶん草祭り、勉強会(京都府立植物園 長澤園長)
- 平成28年3月 第3回せつぶん草祭り、勉強会(京都府立植物園 肉戸助教授)

〔参考URL〕 <https://www.facebook.com/hiyoshinakaseki/>

密集市街地の小さな広場を活用した地域防災力向上に向けた挑戦。 ～ももに広場を舞台に育まれる「共助力」の物語～

想い

軌跡



ももに広場管理運営会 会長

岸村 修

ももに広場の物語は創業者の志から始まった。

「創業の地を地域に無償提供したい」という創業者の志から始まった“広場づくり”。行政と地域で役割を分担しながら、住民がアイデアを出し合って広場を基本設計。大阪市が広場を整備、管理運営は地域住民が行うことに。

広場づくりは地域づくりでもあった。

「そもそも公共とは何か。」住民間の軋轢や近隣交渉、運営時の管理体制など課題が続出…
何度もワークショップを行い、そのプロセスから地域の防災や防犯、環境や交流のビジョンが誕生した。

誰もが楽しむ人、楽しませる人に。

広場では防災訓練以外に、様々なイベントを手づくりで実施。毎月開催の「青空カフェ」は、全員がスタッフで全員がゲスト。皆好き好きにCDや本、手作りのお菓子やアート作品を持ち寄って、広場は青空の下、地域のリビングに！

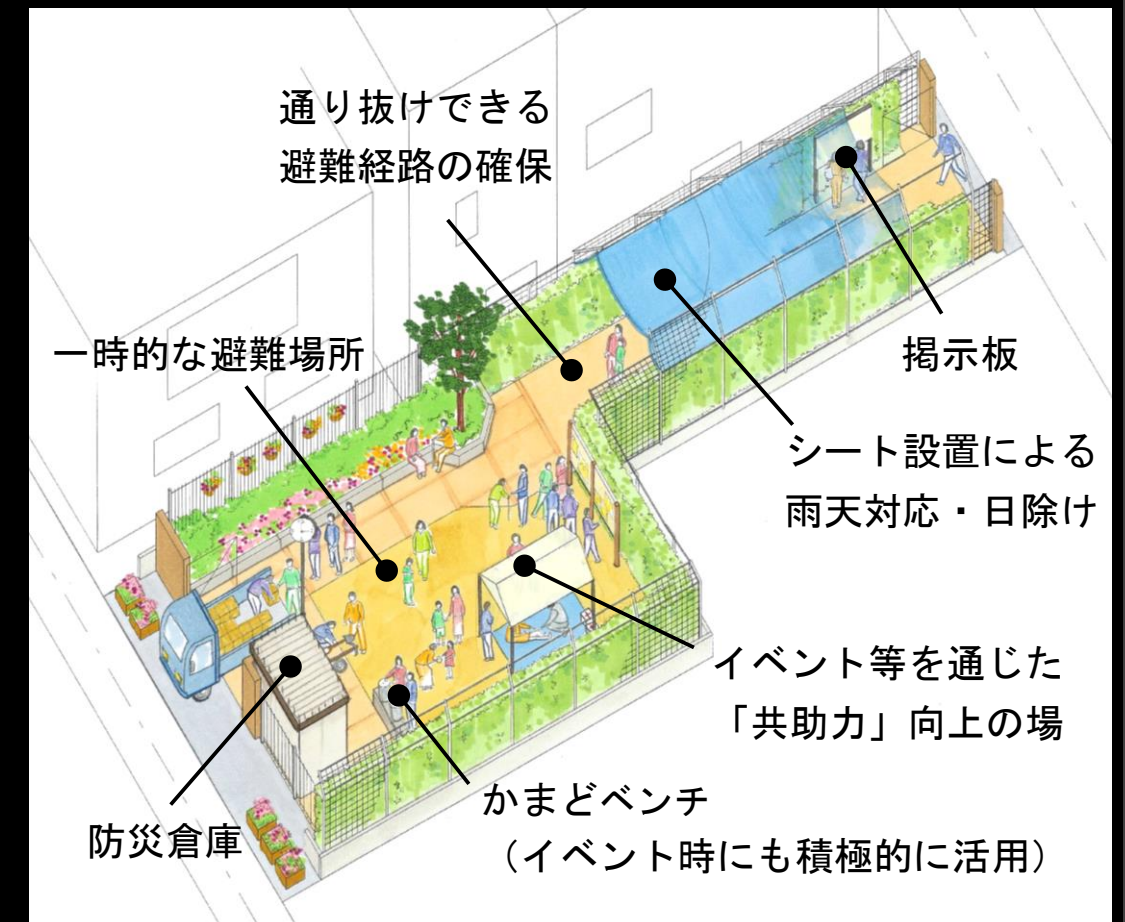
春の「広場誕生祭」や秋の「敬老祭」では、小学校新入生や高齢者に、手づくりの招待状や花束を贈るなど、地域ぐるみで入学と長寿を祝う。

悲しみも分かち合えるまちへ。

ろうそくを灯して、その年に地域で亡くなられた方々を偲ぶ年末の「光の祭」。暮らしの中の涙だって分け合えば、素顔の繋がりが育まれる。

小さな広場での挑戦という物語は続く。

ももに広場を通して、地域の皆の中に眠れる資源があることに気づいた。その資源を活用し、自助や公助だけでなく、お互いが支えあう「共助力」を培うことで、地域防災力が高まる。その理想を支えに、「小さな広場」での挑戦は続く。



住民アイデアが反映された広場



広場づくりのワークショップ



約200㎡の小さな「ももに広場」を舞台に展開される様々なイベント

【主な活動実績】

- 平成23年10月 土地の無償提供の受諾式
 - 平成23年11月～ ワークショップによる広場の基本計画づくり
 - 平成25年2月 ももに広場の完成
 - 平成25年3月～ ももに広場の管理・運営(清掃活動・様々なイベントの企画・実施)
- 〔参考URL〕 <http://www.city.osaka.lg.jp/toshiseibi/page/0000385574.html>



ももに広場管理運営会 岸村会長

想い

軌跡

店主の集まりから始まった豊かな森づくり ～町から山へ、地域の自然を子供とともに創りだす～



地域の老若男女が集まる記念植樹

【主な活動実績】
 平成17年1月 地元コミュニティの再生をめざし、「いたやにすと」結成
 平成20年7月 国土交通省六甲砂防事務所にて森の世話人として登録
 平成28年3月 10回目となる記念植樹祭を開催
 【参考URL】 http://www.kkr.mlit.go.jp/rokko/pr_media/plant/group/volunteer/itaya.php

いたやにすと 代表 梅澤 浩

あの山ってどうなってるんやろう？
 板宿の町の活性化などを目的に集まった会合で「そういえば昔よく遊んだ山に最近行かへんけど、どうなってるん？」と…
 素朴な疑問から山を訪れてびっくり。

真っ暗やん！こんな誰も来うへんで！
 山の斜面にはニセアカシアが繁茂。林内は薄暗く、とても子供が気軽に遊べるような場所ではなくなっていた。

掃除だけやない、森を変えるんや！
 最初の2年はごみ拾い。その後、土地の所有者がわかり、森づくり団体として自然豊かな森づくりに着手。活動そのものや集まるメンバーとの談笑がとっても楽しい。「こんなに森づくり楽しかったんや！大人の道楽やな。」

「キーン」
 森づくり活動で随分と明るくなった林内。イベントで木に張り巡らせたロープやブランコ、丸太の橋を前に子供達から歓声。久々に山に子供達のにぎやかな声が響き渡った。「やっぱり子供達の歓声はいいな。」

参加者の笑顔がエネルギー
 植樹地の草刈など、言葉では言い表わせないほど大変な作業もあり、いやになる時も…。しかし、秋のどんぐり拾いや早春の記念植樹祭に集まる地元の方々の笑顔に背中を押されてしまう。「さあ、頑張ろう！いや楽しもう！」



協力しあって森を整備



近くの小学生も訪れる森に



子供達に忘れられない一瞬を

「これだ！やるしかない！」

～川に近づき、川を利用、川で遊び、美しい川を創る～

想い

軌跡



アシ舟を製作した京橋川かいわいあしがるクラブ

【主な活動実績】

- 平成17年2月 京橋川かいわいあしがるクラブを設立
- 平成17年2月～ 春:川辺の文化祭、夏:アシ舟づくり・カヌー体験、秋:アシ狩り
冬:とんど という季節毎のイベントを確立。
- 平成27年 広島ユネスコ活動奨励賞 受賞

京橋川かいわいあしがるクラブ 代表

山本 恵由美

このままでは担い手が消える！

近年、子供たちが自然に近づく機会が減っている。自然に無関心な子供は、自分と関わりの無いことに無関心に育つだろう。このままでは地域を担う人材は育たなくなる。

そんな危機感を持った…。

アシがある。チャンスだ！

仲間たちとともに製作した巨大アシ舟で宮島に渡るプロジェクトを決行。地元のアシで企画ができることに気付き、これまでやってきた川上の森林活動に加え、川下の環境教育も行うようになった。

それだけじゃ、面白くない。

アシには浄化作用があり、定期的に刈り取れば、水鳥などの生態系に良い影響を及ぼす。

より面白くしようと、川辺の文化祭、アシ刈り、アシ舟づくり、とんど等、四季に応じたアシの企画をつくりあげ、地域で話題に…。

さらにとんどで余った灰を堆肥として利用し、環境の循環を実現。

大切なのは、コミュニティの場。

アシを通じて、地域を繋げ、子供から高齢者までみんなが集まれる場をつくりたい。そして、社会に貢献できる人を一人でも多く育てたい。

ニッポンの将来を見据え、地に足の着いた活動を続けていこう。



川辺の文化祭では大学生も活躍



冬に催されるアシを利用したとんど



山本 恵由美

100年後も活動が続くように将来を見据えて！ ～その家族も参加してくれれば、活動はもっと広がる～

思い

軌跡



活動により水質が改善した江川湧水源

NPO法人江川エコフレンド 代表者 岡田 年弘

名水百選の“江川の湧水”が無くなってしまおう！

水温が夏冬逆転(冬季約20℃、夏季約10℃)する珍しい現象により、冬季に蛍が飛んでいた清流。

市街化の進行に伴い、水質が悪化し、ホテイアオイが大量に発生するなど、いつしか江川周辺の環境破壊が進行していた。

子どもたちの未来のために、今なら間に合う！

この貴重な資源を復活させ、未来に繋げたいとの思いで、行政・企業・住民が協力しNPO法人江川エコフレンドを設立。

「地域の人と一緒に活動」を環境問題への行動方針とする江川隣接の中学校にも環境美化・保護活動や地域の活性化への協力を依頼。

NPO活動に関心を持って貰うために。

広報誌を毎月発行し、子どもたちの環境問題への取組を紹介するなど、情報発信を行い、その家族の参加を募った。

毎月初日の早朝1時間を清掃・除草活動とすることで、活動を習慣化。活動後には参加者との交流を図るため、夏季は「流しソーメン」、冬季は「芋煮会」等の親睦行事も実施。

活動を継続していくために、良い方法ないか？

次世代の後継者育成のため、隣接中学校と連携して「江川エコフレンド・ジュニア」を創設。

会員が講師となり、小・中学校で「水生生物による水質検査」の出前講座を行うなど、問題意識のボトムアップを図った。

思いを繋いでいくことが重要なんだ。

「人は信頼されて大きく育っていく」。
100年先を見据えた後継者育成への熱い思い…。



出前講座で水生生物を採取する小学生



渇水期の川底の清掃



岡田 年弘

【主な活動実績】

- 毎年2月頃 クリーン・ウォークイン・ザ・江川を実施(住民参加による川底の清掃)
 - 平成23年開始 徳島県新規採用職員短期体験研修の受入れ
 - 平成26年8月 「日本三大河川シンポジウム2015」主催
- 〔参考URL〕 <http://www.tcu.or.jp/kamajima/eco/friend/>

夢中になって清流に遊ぶ。そのことだけですばらしい！ ～四国三郎吉野川の大自然を体験し成長する子どもたち～

想い

軌跡



カヤックをはじめとした様々な野外体験活動

【主な活動実績】

- 平成18年6月 AMEMBO設立
- 平成19年3月 吉野川河畔ふれあい広場でカヤック体験活動開始
- 平成20年7月 広場近くの里山に第1号ツリーハウス完成
- 平成22年10月 子どもたち手づくりのピザ焼き窯完成
- 平成29年1月 第7回「日本一のどんと焼き」開催

〔参考URL〕 <http://amembo.net>

AMEMBO 代表

藤川 雅仁

野外から子どもたちが消えた！

子どもたちは「川は危ないので行かないように」と教えられ、水辺や里山から子どもたちが遠ざかった。「このままではダメだ。」もう一度野外のにぎわいを取り戻そうとカヤック仲間呼びかけAMEMBOを結成。

川の怖さを伝えたい

カヤック体験活動を通して学んだのは川の怖さ。次世代のメンバーや子どもたちには川は楽しい所であるとともに怖い所でもあることを、カヤック体験を通して伝えていきたい。

川の源流は山にある

AMEMBOの活動の核はふれあい広場でのカヤック体験であるが、それだけではない。

川の源流は山にあり、子どもたちに川へつながる山の大切さも知ってもらうため、ツリーハウスでの里山体験や観光農園での野菜作り体験の活動も行っている。

まほろばはどこにある

「まほろば」そんな素晴らしい場所はいったいどこにあるのだろうか？カヤック体験などの野外体験活動を通して子どもたちが自然とふれあい成長していく、そんな子どもたちの心の中にこそ「まほろば」が生まれている。

カヤック体験活動を始めて丸10年。水辺は少いづつ賑わい出してきた。AMEMBOはこれからも子どもたちの心の中に「まほろば」が生き続けるよう、カヤック体験活動を続けていく。



ツリーハウスで里山体験



観光農園で野菜作り体験



藤川 雅仁

想い

軌跡

明確なビジョンがあるから25年の活動に ～白鷺の住めるまちづくりを目指して～



「We Love 石手川河川大清掃」の実施状況

松山白鷺ライオンズクラブ 明関 一博

まちづくり運動には明確なビジョンが必要

25年前…、私たちのクラブは「白鷺の住めるまちづくり」をビジョンとして、水辺空間とそこで憩う市民とを密接に結びつける快適な空間を創出したいと考えていた…。

松山に残された場所で

松山には自然を感じられる場所がなく、人と自然の共生が図れる場所として、畑が広がり開発されずに残された広大な地域の石手川周辺に着目。川から遠ざかっていた市民と水辺空間を結びつけるきっかけとなる清掃活動を開始。

たったの41名

清掃活動のはじめた時、参加者は会員のみ。たった41名であった…。

25年の活動が市民にも認められた

活動を継続する中で、ボーイスカウトなどの青少年にも参加の輪が広がり、最大で1600名もの規模にまで発展。

活動が市民にも広く知れ渡り、毎年の恒例行事として認められた。

私たちが汗をかかなければ

市民の意識はかわらない

「行政の力だけではなく、私たち市民が汗をかかなければ、市民の意識は変わらない」と始めた活動は間違っていなかった。

今後は、この活動を通じて、防災教育の取組みも行い、災害時の自助・共助の市民意識に繋げたい。



活動当初はたったの41名



ボーイスカウトも参加



明関 一博

【主な活動実績】

- 平成4年3月 松山白鷺ライオンズクラブ設立
 - 平成4年10月 We Love 石手川の活動開始
 - 平成29年3月 結成25周年記念事業として2017 We Love 石手川を実施
- 〔参考URL〕 <http://www.matsuyama.shirasagi.org/>

竹の伐採活動 竹取物語

～豊かな森林が水源涵養となり災害に強いまちづくりへ～

想い

軌跡



竹取物語2016 西条高校生らによる伐採活動

竹取物語実行委員長

近藤 嘉博

竹林化が災害に影響！

「災害現場は竹だらけ。これだけ竹が増えたら大変、誰か竹伐って」との声。

NPOうちぬき21プロジェクトが中心に竹取物語実行委員会を結成。100人ではじまったイベントであったが、「環境教育にはいいかも」と若い家族連れが続々参加し、今年も200人。

出番でおばあちゃん・おじいちゃん元気に

竹取物語の昼食は地元のおばあちゃん、おじいちゃんがつくるイノシシ鍋とBBQ。ボランティアは料理を満喫。おばあちゃん・おじいちゃんも元気に！

子供の力

児童や高校生の若い声が年に1回こだまする。子供が中心で伐採した竹から昼食の器と箸を作り「ものづくり」の教育実習の場も開催した。

上流から下流へ高校生の創造性

下流の高校生が会場の和みとボランティアを元気に！さらに、上流で伐採した竹を活用したイベントの企画運営そして市民との交流。

冬の蛍

竹取物語で伐った竹を活用して、市内中心部のアクアピアでは例年かぐや姫に出会える冬の蛍を開催！



ジビエ料理に満喫



児童のお箸づくり



西条高校生による伐採竹を活用したイベント



冬の蛍

【主な活動実績】

- 平成23年9月 台風12号により山間部で竹林化した箇所が多く被災
- 平成23年12月 第1回 竹取物語を実施
- 平成28年3月 美の里づくりコンクール(特別賞受賞)
- 平成28年12月 第6回 竹取物語を実施

〔参考URL〕 <http://www.uchinuki21.jp/>

川づくり、人づくり、まちづくり ～みんなで考えみんなで行動、継続は力～

思い

軌跡



入田地区の河川敷に広がる菜の花群落

四万十川自然再生協議会 事務局長

平石 英正

四万十川に菜の花が咲いた！

樹林化が進行していた川原…。河川事業で行われた樹木の間伐や堆積土砂の撤去によって、次第に河川敷に木漏れ日が広くいきわたり、菜の花が自然に発芽して開花。約10ヘクタールにおよぶ菜の花群落が生じた。

菜の花を地域の財産に！

菜の花群落の誕生をきっかけに、「菜の花まつり」を企画・開催。

入田地区に広がる菜の花を地域の為に活用できないか？地元の方々が如何に参加し、地域に役立つ「まつり」にするのか？地元地区の役員と何度も話し合いを行い、地域の野菜や料理などを販売する物産コーナーを出店することに…。今では地区の大きな収益につながり、地域の団結力も強くなった。

四万十川を舞台に地域を活性化！

「菜の花まつり」は回を重ねる毎に関心の高まりや取り組みの輪が広がり、地元から地域の活動に発展。

現在では、関係機関が一丸となって開催する四万十市の一大観光イベントに…。今では観光ツアーにも組み込まれるなど、最初は約4,000人であった来場数も現在では約20,000人！

もっと地域の活性化を！

「菜の花まつり」をはじめ、各種イベントへの参加や環境保全活動、四万十の水辺八十八箇所を選定による観光資源のPRなどを続け、「継続は力！」をモットーに地域に役立つ取り組みをこれからも続けていきたい。



地元の野菜、イチゴ等を販売



人で賑わう菜の花まつり



「四万十の水辺八十八箇所」めぐり

【主な活動実績】

平成14年11月	四万十川自然再生協議会 設立
平成18年5月	入田地区でマイツルテンナンショウを発見 保護活動を開始
平成20年3月	菜の花まつりを企画・開催
平成22年7月	四万十の水辺八十八箇所を選定
〔参考URL〕 http://shimanto-saisei.com/	

「夢が叶うまち、門司港レトロの誕生」

～高度成長できなかつた、だからこそ残った財産～

思い

軌跡



歴史あるまちを愛し、出会いと感動を大切に。
「こころ豊かな人々の住まうまち」
を目指します。



観光地となった港町 門司港レトロ地区

門司港レトロ倶楽部 4代目会長

高橋 泰雄

かつて栄えた港町は見る影もなし

明治、大正、昭和初期と、交通の要所として横浜・神戸に並ぶほど栄えた門司港。しかし戦後の交通の発展に伴い通過されるまちへととなり、日本の高度成長とは逆に衰退していった。

取り残されて気付く、我がまちの財産

ボヤキの声であふれかえていた昭和60年代。地元の若手と行政でまちづくりについて議論を交わした。「港と取り残された古い建物を活用して「観光」をウリのまちにしよう！」と…。

恋人達が手をつないで歩くまちへ変貌

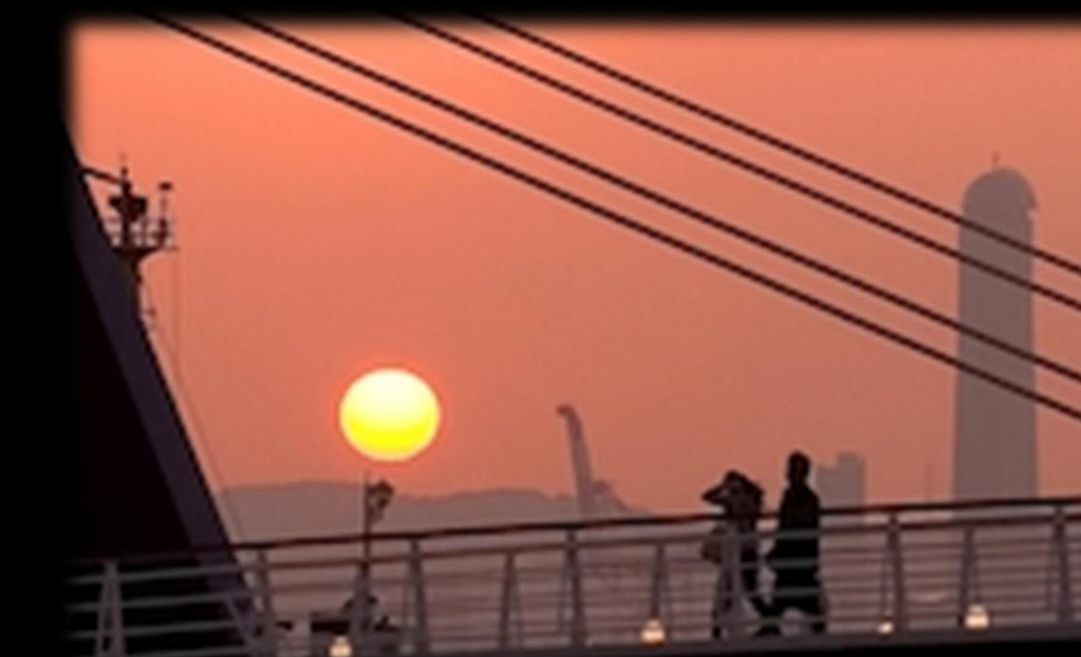
港と建物を整備したのちは、おもてなし。そのソフト面を担うべく門司港レトロ倶楽部が誕生。地元・事業者・行政が一体となって様々な取り組みをし、かつての寂れた港町は人気の観光地&デートスポットに。

門司港に行けばいつも何かやっている

現在は年間600件以上のイベントを誰かしらがやっていて、常になにか楽しい事ができないかをまちの先人も若手も一緒になって考えている。ハードだけでは飽きられる、大事なのはその中身。「まちあるき」では観光目線ではない地元目線の案内をする工夫も。

世界のまち『KANMON』を目指して

今後は対岸の下関との連携を更に深めて『関門』を世界的にアピールしていきたい。



恋人の聖地 跳ね橋からの夕焼け



「門司海峡フェスタ」が門司と対岸の下関をつなぐ



高橋 泰雄

【主な活動実績】

- 平成7年12月 門司港レトロ倶楽部設立
- 平成8年5月 門司港レトロフェスタ(現:門司海峡フェスタ)スタート
- 平成12年3月 レトロ基金委員会設立 文化財保護の為の募金活動開始

〔参考URL〕 <http://www.retro-mojiko.jp/>

「郷土の宝・朝倉の歴史的農業財産を守る」 ～地域を潤し350年 山田堰・堀川用水・水車群～

想い

軌跡



朝倉三連水車

堀川的环境を守る会 副会長

徳永 哲也

時代の変化と共に出てくる環境問題など

1663年に先人達が命がけで築造し、300年以上朝倉の地を潤してきた山田堰・堀川用水路。

近年は家電・自転車等を含むゴミの投棄で、環境の悪化や維持管理と水車の更新費用等の負担が、少なくなっていく農家に重くのしかかり存続が危ぶまれることに。

自分たちの地域は、自分たちで守る

「郷土の宝・財産は地域で守ろう」をスローガンに「堀川クリーンアップ活動」を開始。当初100人程の参加で継続出来るか不安であった活動が、地域住民の理解を得て「郷土の財産や環境を守りたい！」という想いが集結し、今では、子どもから大人まで1,000人以上が参加する活動に。

仲間を増やしたい

水車は5年毎に更新しなければならない。

でも、維持管理や更新費用を負担する農家は少なくなっていく。みんなで考えた。地域の財産を守る仲間をさらに増やそう。水車更新時の部材の販売、募金活動・寄付付き商品の販売など、アイデアは揃い、これらをさらなる活動のひとつに。

水車が回り続ける未来のために

300年以上地域を潤してきた歴史的財産を、次世代にも残していかなければならない。「山田堰・堀川用水・水車群」の歴史・現状や水の重要性をもっとみんなに学んでほしい。

小学生と「水源林体験学習」や「水の学習発表会」もやっている。郷土の宝を愛し、守る心を育てなければという思いで。



堀川クリーンアップ活動



水車の更新作業



寄付付き商品(米の販売)

【主な活動実績】

- 平成20年 「堀川的环境を守る会」設立(堀川クリーンアップ活動、学習会・発表会等を開始)
- 平成26年 「三連水車保存会」設立(募金活動等開始、世界かんがい施設遺産に登録)
- 平成27年 寄付付き商品の販売開始

「故郷延岡に恩返しがしたい」 ～ふるさとへの熱い思いが奇跡の堤防を産んだ～

思い

軌跡



満開の桜と菜の花で賑わう堤防沿い(延岡花物語)

天下一ひむか桜の会 代表 松田 庄司

「いつの日かふるさと延岡に桃源郷を！」
ふるさと延岡に名所をつくって恩返しがしたい。
昔の賑わいを失いかけたふるさとに、遠く離れた同級生を受け、平成21年から3年間にわたり、五ヶ瀬川堤防沿い延長2.3kmに河津桜300本を植えた。平成21年より毎年、菜の花の種をまき、美しい花の空間づくりを進めてきた。

憩いの空間を創出

延岡市で植栽を行った場所は、360° パノラマで陽がサンサンと降り注ぐ場所。春の麗らかな日差しに、ピンクの花びらが、より色鮮やかに映え、早春の観光イベント「延岡花物語」の会場に選ばれるまでになった。

活動における苦勞と工夫

自然に木は育つものと考えていたが、根腐れをおこしたり、水やり等々苦勞の連続だったが、市民や行政の応援も加わり、続けることができた。今では、多くの市民が参加する新たな協力団体「コノハナロード市民応援隊」を結成し、彼岸花やコットン等も植え、四季を通じて、市民が楽しめる憩いの空間づくりを目指している。

これからの抱負

市民が楽しんで活動できる空間づくりは、高齢者、障害者、幼保園の団体は勿論、多くの人の生きがいづくりにもなっている。「天下一ひむか桜」は、まさしく延岡再生の第一歩、大木となり、満開に花開くまで、ふるさとの活性化のため、活動を続けていきたい。



河津桜の植樹



早春の延岡の風物詩となった



松田 庄司
(年間250日も汗を流す)

【主な活動実績】

- 平成21年3月～平成23年3月 河津桜の植樹
- 平成21年7月 天下一ひむか桜の会設立
- 平成21年秋より毎年 菜の花の植栽
- 平成28年2月 コノハナロード市民応援隊を結成

子どもたちの誇れるふるさとづくり ～花祭りと山羊を活用した地域活性化～

思い

軌跡



大石公園ゆり祭りの様子

【主な活動実績】

- | | |
|----------|------------------------------|
| 平成25年4月～ | 第1回大石公園ゆり祭りを開催 |
| 平成26年9月～ | 第1回大石公園ひまわり祭りを開催 |
| 平成27年2月 | 「美ら島おきなわ・花と緑の名所100選」に選定(沖縄県) |
| 平成28年11月 | 大石公園花の新名所“アマリリス通り”を開園 |

大石公園 まちづくり委員会

個と個をつなげる

子どもたちのふるさとづくり・地域活性化に向けた取り組みが必要であった。公園を拠点に活動を行っている団体はあるものの連携がなく、個々の活動だけにとどまっており、各団体をつなげ、地域をまとめる必要があった。

子どもたちが誇れるふるさとづくり

花木の植樹の際には、近隣の保育園児にも手伝ってもらい、子どもたちが誇りを持てるような、地域づくり・ふるさとづくりに取り組む！

幅広い世代が参加しやすいイベントづくり

ゆり祭りは、高齢者を中心に、ひまわり祭りでは、子どもたちを中心とするなど年齢に応じたプログラムを編成。幅広い世代が公園と関わり、活用できるような取り組みを行っている。

また、山羊を飼育して動物と子どものふれあい活動も行っている。山羊は各地のイベントにも引張りだこで、子どもの情操教育にも役立っている。

継続的な運営のために

祭り点灯用に灯籠等を自主制作、灯籠の側面には団体や企業名を掲載し広告費という形式で運営資金の協力をお願いしている。

人材育成の場として

那覇市が運営している「なは市民協働大学」と連携し、学生を受け入れ、公園ボランティアの活動をとおして、人材の育成と活躍の場を提供。



山羊とのかけっこ



ひまわり種の植え付け作業



子どもたちによるエイサー

少年に夢を、青年に希望を、お年寄りに誇りを・・・ そんな街に住みたい！

想い

軌跡



メッセージを載せ国場川を泳ぐ手づくりのこいのぼり

国場川に 清流を取り戻す会

地域環境の悪化

本土復帰(1972年)以降の急激な都市化に伴い当地域は人口が増加し、コミュニティ機能は低下した。加えて、地域の中央を流れる国場川も流域の急速な開発とともに河川環境の悪化などの問題も発生。

地域からは「問題を解決しなければ！」などの声が聞こえるようになった。

子ども達に“ふるさと”を残すために

地域環境の改善を目的として有志が立ち上がり、「国場川に清流を取り戻す会」を発足。「子どもたちのふるさとづくり」の一環として、手づくりこいのぼりによる「国場川こいのぼりまつり」を開催した。このほか、川沿いの清掃や植栽など河川環境の改善に取り組んでいる。

世代間の交流・橋渡し

地元小学校の「総合的な学習」の時間にも参加し、世代間の交流を広げる工夫も…。河川の清掃・維持活動やこいのぼりまつりには、地域から若い世代が多く参加するようになった。

また、近隣高校生にもイベントに参加してもらい、若い世代と一緒に活動を行うことにより地域の活性化や世代間の橋渡しにも…。

“少年に夢を、青年に希望を、 お年寄りに誇りを・・・そんな街に住みたい！”

20年間の継続した活動の結果、地域のコミュニティは活発になり、国場川は若い二人の人生の門出の場所としても選ばれるまでになった。

私たちは、この地域を那覇で一番住みやすく、新しい息吹が感じられる街にしたい。



伝統エイサーが
まつりに花を添える



清掃活動に集まる住民



結婚の記念撮影の
舞台となる国場川

【主な活動実績】

- | | |
|----------|--------------------------------|
| 平成 8年5月 | 会の設立準備会開催 |
| 平成 9年5月～ | 第一回国場川こいのぼりまつりを開催、河川周辺の清掃活動を開始 |
| 平成13年11月 | サガリバナ植栽プロジェクト(サガリバナ20本を植栽) |
| 平成23年2月 | 国場川さくら並木プロジェクト事業(桜80本を植栽) |

ちゅ ぼし 美ら星を島の観光資源に ～星空を活用して、地域活性化活動～

思い

軌跡



南の島の星まつりの様子

(*高感度カメラにて撮影)

【主な活動実績】

- 平成14年8月～ 第1回南の島の星まつりを開催
 - 平成23年10月 「星空の街・あおぞらの街」全国大会にて環境大臣賞 受賞
 - 平成25年2月 地域づくり総務大臣表彰 受賞
- 〔参考URL〕 <http://yaehoshi.littlestar.jp/>

NPO法人 八重山星の会 代表理事

通事 安夫

私たちの資源とは・・・

私たちの島の魅力とは何だろうか…。島内には気づかない魅力を観光の資源として活用できないか…。普段見慣れていた星空が島外の人にとっては魅力的な場所だった。

多彩なイベントを開催

南の島の星まつり期間中は、星まつりWEEKとして星空と関連したプログラムを企画。ライブや講演会、天体写真コンテスト、公開星空ウェディング、天体観望会などたくさんの人が集えるイベントを開催！

地域を巻き込んだイベントへ

綺麗な星空を眺めてもらうための、全島一斉ライトダウン。ライトダウンに協力をしてもらうことで、祭りに直接参加していない住民にもイベントに協力してもらう体制づくりを！

高校生とのコラボ企画

全島一斉ライトダウンでは、島全体をあげての協力が必要であった…。そこで、高校生に周知イベントを企画してもらい、イベントに参画してもらっている。

星空保護区への取り組み

石垣島の綺麗な星空を多くの方々に見てもらうために、日本では初めてとなる「ダークスカイプレイス(星空保護区)」の認定に向けて、民間団体や行政とともに活動を行っている。



まつり会場での星空観察



周知イベントを企画した高校生



代表理事:通事安夫

昨日、ふるさとのために何ができたろうか
～地域づくりに携わる人たちの想いと軌跡～

=====

平成29年3月 初版発行
国土交通省総合政策局公共事業企画調整課

=====

